

## [学会開催報告] 第40回北陸産婦人科学会

著者	井上 正樹
雑誌名	金沢大学十全医学会雑誌 = Journal of the Juzen Medical Society
巻	121
号	2
ページ	80-80
発行年	2012-06-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2297/32436">http://hdl.handle.net/2297/32436</a>

## 『学会開催報告』

## 第40回北陸産科婦人科学会

The 40th Annual Meeting of the Hokuriku  
society of Obstetrics and Gynecology金沢大学医薬保健研究域医学系分子移植学  
(産科婦人科学)

井 上 正 樹

第40回北陸産科婦人科学会は、2012年6月10日、井上正樹(金沢大学産科婦人科学教授)を会長として石川県政記念しいのき迎賓館(旧石川県庁)で開催されました(写真-1)。一般演題23題に加えて、モーニングセミナーに本学産科出身の千葉大学大学院生殖医学教授：生水真起夫先生による「コード・むらさきプロジェクトー安全な産科医療体制の構築にむけてー」(崩壊の危機にある周産期医療を救うべく行政レベルで様々な取り組みがなされてきた。千葉大学では医療安全と危機管理をキーワードに産科危機的出血に対するマニュアル化したコードむらさきについて概説された。), ランチョンセミナーに鳥取大学医学部がんセンター教授：紀川純三先生による「卵巣癌化学療法の最近の話題」(最近の分子生物学の進歩に伴い癌の増殖・進展・転移の機序の一端が明らかとなり、それらに絡む遺伝子や蛋白を標的とした分子標的薬が開発されてきた。それらの光と陰について概説された。), アフタヌーンセミナーに岐阜大学大学院医学系研究科産科婦人科学教授：森重健一郎先生による「再発卵巣癌治療の将来展望」(再発卵巣癌は特にプラチナ抵抗性では難治性で、現在では根治は難しい。生存期間の延長とQOLの改善が望まれる。薬剤の上手な組み合わせについて概説された。)の各講演会が開催されました。参加人数121人で、終日熱気あふれる討論が展開されました。教室員が一体となり取り組み、成功裏に終了することができました(写真-2)。



写真-1



写真-2